

マカジキ 北太平洋

Striped Marlin, *Tetrapturus audax*

最近一年間の動き

2005年に行われたISCかじき類作業部会データ準備会合で、北太平洋のマカジキを単一系列として資源評価することに決まった。ISCによる北太平洋マカジキ資源の資源評価作業は2006年のデータ準備会合において主要漁業国のデータが整備されたため、2007年に実施される予定である。

利用・用途

刺身、寿司、切り身(ステーキ)

生物学的特性

- 寿命: 10 歳
- 成熟開始年齢: 3~4 歳
- 産卵期・産卵場: 4~6 月、北緯 20°前後の海域
- 索餌期・索餌場: 調査中
- 食性: 調査中
- 捕食者: 調査中



管理・関係機関

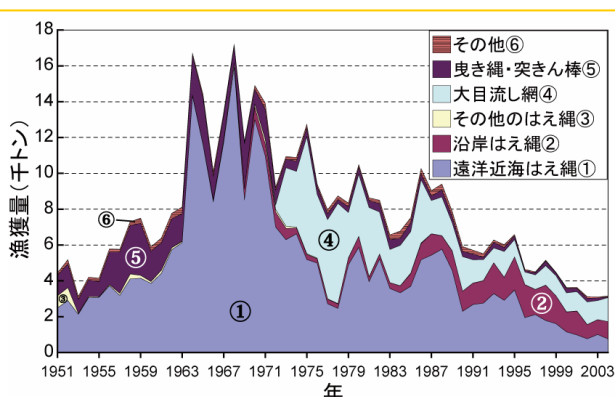
中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)、北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会(ISC)

漁獲の動向

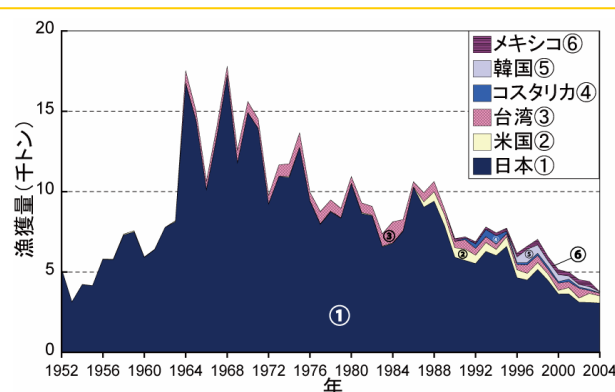
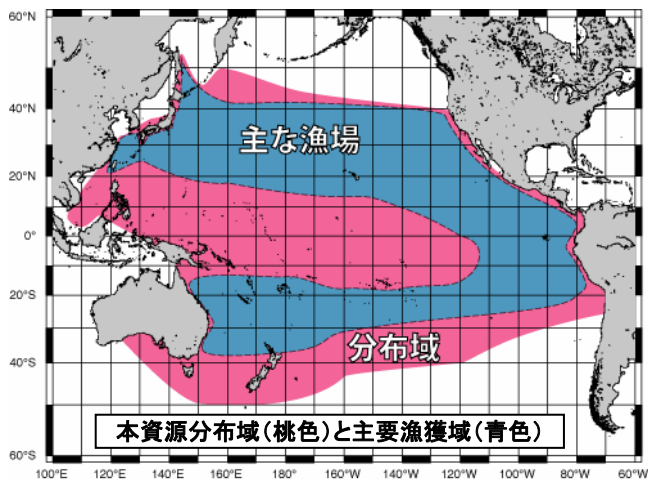
我が国の本資源の漁獲量は、1970年代に1万トンを超えたが、近年は3~4千トンに留まっている。ISCが集計した本資源の総漁獲量は1960年代前半までは1万トン以下であったが、その後急激に上昇し1万5千トン以上に達した。漁獲量は、1970年団中旬以降減少を続け、2001年以降は5千トン以下にまで落ち込んでいる。

漁業の特徴

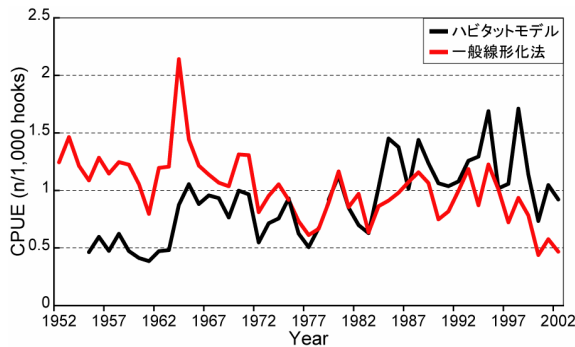
本資源のほとんどがはえ縄で、一部は突きん棒、流し網、あるいは曳き縄で漁獲される。我が国の本資源の漁獲の大部分はまぐろ類を対象とした操業の混獲で漁獲され、本種が主対象の操業は房総沖、釧路沖、南西諸島等ではえ縄、突きん棒、流し網等で季節的に小規模に行なわれる。



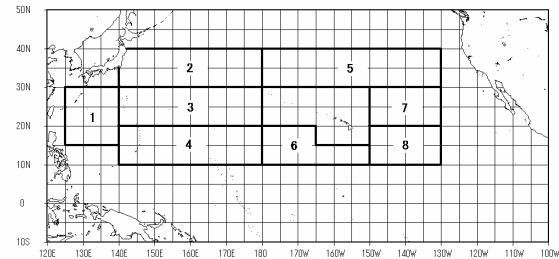
我が国の本資源の漁業種別漁獲量



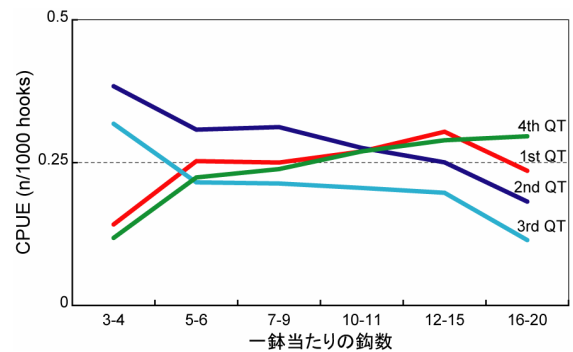
本資源の国別漁獲量(ISC集計分)



マカジキ北太平洋系群の資源量指数



CPUE の標準化に用いた海区割り



一般線形化法で推定した四半期別一鉢当たりの釣数別の CPUE

資源状態

2004 年 1 月のハワイでの ISC カジキ類作業部会会合で、北緯 10 度以北、西経 130 度以西を一つの資源と仮定し、日本の遠洋・近海はえ縄の CPUE を標準化した資源量指数の推定結果を報告した。CPUE の標準化は、海区・季節・漁具の設置水深の差から生じる CPUE の違いを一般線形化手法で補正し、資源水準の変化を取り出す方法と、ハビタットモデルで直接補正を行う場合の 2 通りで行った。

一般線形化法による資源量指数の推定は、季節的に浅縄より深縄の方が釣獲率が高いという不自然な結果となり、近年の資源水準を過小評価している可能性が高い。ハビタットモデルでの資源量推定は、浅縄操業が主体であった 1950～1970 年代の漁具効率の情報不足から、同期間の資源量指数推定値の信頼性が低い。2 つの手法で推定した資源量指数は、ともに資源評価を行うために必要な信頼性を有していないと考えられる。

資源評価まとめ

- 資源評価は ISC が実施
- ISC の資源評価は、2007 年に実施の予定

管理方策

2004 年 1 月にハワイで行われた ISC かじき類作業部会会合では、資源量指数推定値の信頼性が低いので資源評価は行われず、本資源の管理に関しては何等言及されなかった。北太平洋の群れを単一資源と仮定した新しい資源評価は 2006 年に行う予定であったが、漁獲統計の整備の遅れ等により 2007 年に延期された。

資源管理方策まとめ

- 本資源の管理方策は特に設定されていない。

マカジキ(北太平洋)資源の現況(要約表)

資源水準	(おそらく)中位～高位
資源動向	(おそらく)減少
世界の漁獲量 (2000～2004 年)	3,800～5,100 トン 平均: 4,600 トン
我が国の漁獲量 (2000～2004 年)	3,100～3,600 トン 平均: 3,300 トン